

台車と安全

－職場の安全&衛生－

◆ 台車と災害 ◆

台車(手押し台車)は、物を運ぶのに便利な器具です。荷物の運搬を専門にする運送業に限らず、台車を備えている会社は多いと思います。ただ、運搬中台車のへりを自分や他人の足首にぶついたり、足が荷台下に入りアキレス腱やすねを傷つけたり、荷崩れにより自分や他人に積み荷が当たったり、周囲が見えなくなるまで荷物を積み上げて壁等に衝突し荷物を落下させたり、時には人と接触してケガをさせたりする事故が発生しています。

そこで、今回はこの台車について、安全の観点から「物」への対策と「人」への対策を考えてみたいと思います。

◆ 「物」への対策 ◆

① ストッパー

安全に作業するためには、まず台車が止まることが必要です、この止める手段として「ストッパー」があります。足元のペダルを踏むとブレーキが掛かるフットストッパーや、ハンドルから手を離すとブレーキが掛かるハンドストッパーがあり、これを併用できる台車もあります。作業に応じて、その種類を選ぶ必要があります。

② 緩衝材

台車のへりに自分や他人の足首をぶつけることを避けるためには、台車のへりにゴムなどの緩衝材を付けることが考えられます。

③ 荷台下に入らない対策

足が荷台下に入り、台車を押す時は、すね部に当て、引いている時はアキレス腱に当てケガをすることがあります。このような対策としては、すね部またはアキレス腱部が入らないようにカバー板を取り付け、また、カバー板でケガをしないように角を丸める必要があります。

◆ 「人」への対策 ◆

正しい台車の使い方について、作業方法を決めて、従業員に教育することが必要です。

台車の安全な使い方のポイントは以下のとおりです。

①台車は決められた場所に置く。使い終わった後は、放置しないで決められた場所に戻す。

②ストッパーを適切に使う。

③積む荷の形や大きさに応じた台車を使う。台車は原則として押して使う。

④荷崩れしないように積む。前が見えない高さまで積まない。最後に降ろす物から先に積む。

⑤運搬中は、他の作業員や周囲の人に衝突しないように注意する。

⑥曲がり角ではいったん停止し、左右の安全を確認する。

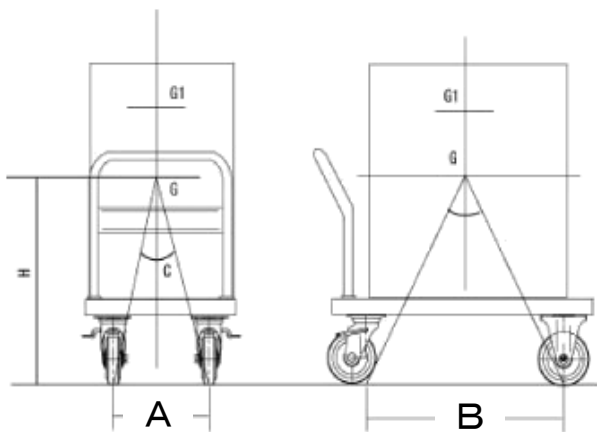
⑦傾斜している場所で積み荷や荷卸しをしなければならない場合、ハンドルから手を離すと自然に台車が動き出す危険があります。ストッパー付きの台車であれば、必ずストッパーを使用すること、

また、ストッパーが付いていない台車の場合は、2人で作業すること等の逸走防止対策が必要です。

◆ 両面からのアプローチ ◆

台車の安全対策については、以上のように「物」と「人」の両面から考えていくことが大切です。

それには、まず自職場の荷物はどのような物が多いのか把握して、それにあつた対策を講じていくことが大事だと思います。



台車の安全対策

鉄道駅構内では、人混みの中で運搬作業するため、まず運搬者が先頭に立ち台車を引く形をとっています。手押し台車でなく手引き台車となります。また台車に、鉄に比べて柔らかいプラスチック製を使用したり、またはコーナーにゴムを取り付けたりして工夫しています。

A(トレッド)とB(ホイールベース)が広いほど重心が下がり、転倒のリスクが下がる。重いものは下に載せた方が安定する。